



広島オーストリア協会

会 報

No.36

平成25年5月10日発行

編集・発行／広島オーストリア協会

〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ 総務局内

TEL (082) 221-4964 FAX (082) 221-4905



オーストリア ハルシュタット

資料：オーストリア政府観光局

目 次

ご挨拶	2	トピックス	8
総会報告	3	会員寄稿	8
駐日オーストリア大使寄稿	4	ウィーン便り	10
活動報告	6	コンサート開催のお知らせ	12



会長就任のご挨拶

会 長 大 辻 茂

会員の皆様方には、平素より広島オーストリア協会の活動に、ご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、私は、昨年6月1日に開催されました第25回総会の決議により、橋本宗利前会長の後任と致しまして広島オーストリア協会会長に就任いたしました。協会発展のため格段の努力を致す所存でありますので、何卒一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度の広島オーストリア協会は、橋本宗利前会長が長きにわたり日本・オーストリア間の友好関係構築に貢献されたことから、オーストリア共和国大統領より金賞を授与され、さらにベルンハルド・ツィムブルグ大使が駐日大使に正式にご就任される等、記念すべき年となりました。更に、総会、ビアホールの会、クリスマス例会、ケーキと音楽を楽しむ会等のイベントには年間を通じて多くの会員の皆様にご参加いただき、賑やかな社交の場となりました。

今後の協会活動につきましては、組織の一層の充実を図ると共に、音楽や文化面を中心としてさらに魅力ある事業を展開して参りたいと存じます。また本年は、オーストリア親善訪問団派遣を実現したいと考えておりますので、会員の皆様には、是非積極的にご参加を頂きますようお願い致します。

今後とも広島・オーストリア間の交流が、友好の精神に基づき、ますます活発になり、会員の皆様にオーストリアをより身近に親しんでいただけるよう、活動の充実に努めて参ります。皆様方の力強いご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



ご 挨 拶

前会長 橋 本 宗 利

私は昨年6月を以って当会会長並びにオーストリア共和国名誉領事を退任いたしました。2001年6月篠原前会長の後を継いで会長に就任以来12年間に渡り大過なく協会運営の任を果たす事ができましたのは、ひとえに会員の皆様、広島ホームテレビ事務局の皆さん、関係各位のご理解とご協力のお陰であり、ここにあらためて感謝致します。

さて、私は協会運営に当たって

1. 会員組織の強化
2. 会員間の親睦の増進
3. 広島 - オーストリアの交流推進

の3点を基本とし、定例会はじめ年数回の会合を持ったほか、オーストリアへの3回に及ぶ交流ミッションの派遣、広島市内における一般市民を対象としたオーストリアウィークの開催、広島平和モニュメントのウィーンへの恒久設置等のプログラムを展開して参りました。このように、広島における二国間協会の在り方として一応のレールは敷けたと思っております。然しながら組織は常に発想の転換を繰り返す事によってのみ進歩するものです。今後、大辻会長のもとで新しい観点も取り入れた諸事業を展開され、協会が一層発展する事を心からお祈りし、ご挨拶と致します。





- 日 時 平成24年6月1日(金) 18:00~20:00
- 場 所 ANAクラウンプラザホテル広島
- 出席者 120名
- 来 賓 トーマス・ロイドル臨時大使

名誉領事交代のため、ロイドル臨時大使より、大辻新会長に名誉領事任命状が交付されました。また、橋本名誉会長が、広島オーストリア協会の会長として、そして在広島オーストリア共和国名誉領事として、10年以上にわたり

オーストリアと日本両国の文化交流に貢献された功績により「オーストリア共和国有功栄誉金章」を受章され、ロイドル臨時大使より、勲章が伝達されました。

懇親会では、広島のカフェバーでシャンソンを中心にヴォーカリストとして活躍している Mitsuko (ミツコ) さんのステージで、「時は過ぎて行く」や「パダム パダム」などのソロを楽しみました。



平成24年度事業報告

平成24年度理事会・総会

6月1日(金) ANAクラウンプラザホテル広島(参加者:120人)

ビアホールの会

8月30日(木)広島アンデルセン(参加者:100人)

近藤嘉宏plays Chopin 「別れの曲」シネマ&リサイタル

11月10日(土)はつかいち文化ホールさくらびあ大ホール(参加者:956人)

講演とクリスマス例会

12月4日(火)リーガロイヤルホテル広島(参加者:120人)

ケーキと音楽を楽しむ会

平成25年3月16日(土) ホテルチューリッヒ東方2001 (50名)

平成25年度事業計画

平成25年度理事会・総会

6月3日(月) ANAクラウンプラザホテル広島

講演とビアホールの会

8月

オーストリア親善旅行

9月(予定)

クリスマス例会

12月

ケーキと音楽を楽しむ会

平成26年3月

平成24年度役員(平成24年6月1日現在)

役 員	氏 名	現 職
会 長	大 辻 茂	(株)広島ホームテレビ社長
副会長	不 破 亨	湧永製薬(株)副会長
	光 井 安 子	音楽家
	吉 原 誠	マツダ(株)総務・法務室長
専務理事	松 原 一 彦	(株)広島ホームテレビ取締役総務局長
理 事	青 木 暢 之	(株)中国放送社長
	浅 井 幹 夫	(株)中国新聞社専務
	久 保 雅 史	広島エフエム放送(株)副社長
	熊 平 雅 人	(株)熊平製作所会長
	後 藤 文 生	広島テレビ放送(株)最高顧問
	島 村 誠	(株)テレビ新広島常務
	中 川 英 二	三菱商事(株)理事中国支社長
	野 坂 文 雄	(株)もみじ銀行頭取
演 講 員	幾 太 郎	(株)広島ホームテレビ会長
	林 克 士	福山商工会議所会頭
	福 嶋 正 純	広島大学名誉教授
	望 月 成 二	エビス電工(株)社長
	吉 中 康 磨	安田女子大学非常勤講師
	スティブン・ロイド・リーパー	(財)広島平和文化センター理事長
	トーマス・ロイドル	駐日オーストリア大使館 代理大使
監 事	和 田 行 司	(財)ひろしま国際センター専務理事
	迫 谷 章	中国電力(株)常務
	志 水 省 夫	(株)新日放社長

運営委員

役 名	氏 名	現 職
委 員	阿 部 秀 造	(株)阿部洋酒店社長
	古 池 誠 治	(財)広島平和文化センター国際交流・協力担当部長
	内 海 輝 雄	オフィスU代表
	小 坂 哲 也	広島国際大学教授
	古 田 篤 良	マツダ(株)コーポレート業務推進本部
		総務部総務コミュニティグループマネージャー
	光 井 安 子	音楽家
	梶 中 勝 邦	(株)広島ホームテレビ 国際担当補佐
	梶 本 則 雄	(財)ひろしま国際センター交流部交流推進課長
	多 田 直 人	(株)もみじ銀行カスタマーコミュニケーション部
		部長兼広報室長

特別役員

役 名	氏 名	現 職
名誉会長	篠 原 康 次 郎	
	橋 本 宗 利	(株)広島ホームテレビ相談役
顧 問	川 野 祐 二	エリザベト音楽大学学長
	岸 田 文 雄	衆議院議員
	湯 崎 英 彦	広島県知事
	深 山 英 樹	広島県商工会議所連合会会頭
	松 井 一 実	広島市長

在京オーストリア大使としての一年目

駐日オーストリア大使

ベルンハルド・ツィムブルグ



2012年7月、駐日オーストリア大使として東京に着任しました。これまでにオーストリア外務省アジア局局長の職に就いた経験や、多数の訪日を通じて日本を知り、次第に親しみを感じ、また敬意を表するようになりました。駐日

大使に就任し、新たな職務にチャレンジしていく事は、私にとって大きな喜びです。仕事面ではもちろんですが、私の家族もまた日本に大きな関心を抱いており、東京での生活には様々な面で得るところがあるように感じます。国際情緒溢れる住宅街と商店街の間に位置する駐日オーストリア大使館は、日本とオーストリア両国のパートナーシップにおける重要な拠点です。

日本とオーストリアは、これまでに多岐にわたる友好関係で結ばれ、国交樹立140周年の長い伝統を誇っており、両国共通の価値観と世界観は歴史的な友好関係の礎となっています。これまでに築いてきた深い繋がりを再認識させる事、政治関係を発展させる事、また学術や文化交流を深化させる事等には駐日オーストリア大使として大きな関心を寄せています。これらの両国共通の利益を目指した長期的課題についての意見交換を行う有識者委員会「将来の課題のための日・オーストリア委員会」は、これまでの20年間を通じて多くの活発な議論が交わされてきた大変有意義な機関であり、両国間の交流活性化において、もはや不可欠な存在となっています。

共通の価値と目的は国交の礎

オーストリアと日本は基本的な原則において同様の見解や価値観を有しており、法治主義、民主主義および基本的人権の尊重は両国の基礎をなす最も重要な指導原理です。ま

た、環境および気候保護という二つの万国共通の問題を解決する事や、武器や軍縮政策について平和的解決を目指す事等、両国ともに国際的に密接な協力を必要とする重要な課題を有しています。このため、両国が加盟しているアジア欧州会議（ASEM）および国際連合（UN）は、日本とオーストリアの将来に向けた問題解決のための最も重要な国際機構です。

経済の動向

経済関係においても、両国は密接な関係にあります。日本はアジアにおける第二番目の市場規模であり、最も重要な貿易相手国の一つです。オーストリアの輸出市場にとっても、日本は米国、中国に次ぐ輸出量があり、重要な貿易相手国です。また、オーストリアと日本は同様の経済構造の問題に直面しています。経済成長においては、2011年3月11日の東日本大震災による大打撃や、ユーロ圏の不安定な経済環境により大きな影響を受けました。但し、再生可能エネルギーの分野における新技術の協力等、明るい話題もあります。オーストリアの対日本貿易において伝統的に大きな役割を果たしてきた材木や木製品の輸出は現在でも堅調に推移しています。日本の対オーストリア輸出品目は、自動車や機械、電子機器等がその大半を占めています。このような経済情勢を背景に、規格の統一化や関税撤廃を供え自由主義の原理に基づいた貿易環境を整備する事は、双方にとって有利であり、更なる発展のチャンスを秘めていると考えております。このため、オーストリアは欧州連合（EU）の一員として、今後双方の経済発展及び貿易障壁の軽減を目指し、欧州連合（EU）・日本間に自由貿易協定（FTA）の交渉が開始されることを強く希望しています。

昨今話題では、2013年10月東京にて開催予定のITS（高度交通システム）世界会議にて、インテリジェント交通シス



テム、電気自動車、鉄道技術の最新トレンドや技術研究結果が発表される予定であり、同分野での今後の経済面の協力関係の発展において大きな意味を持つものと見込まれています。昨年の同会議はウィーンで開催されましたが、今年東京で開催されるこの重要な国際会議には、オーストリアを代表して大人数の派遣団の来日が予定されています。

活発な音楽および文化交流

音楽・文化分野での交流は、言うまでもなく特別な位置づけになっています。交流関係は多岐にわたり、極めて多様であり、もはや全体を把握できる規模を超える程です。音楽分野では、ウィーン少年合唱団の他、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団およびウィーン交響楽団が度々日本公演を行うことは、私にとって非常に大きな喜びです。その他にも、今年日本での活動に重点を置くザルツブルグ音楽祭の大規模なプレゼンテーションが2013年4月東京にて企画されており、同音楽祭の総裁ヘルガ・ラブル＝シュタード氏および音楽祭総監督アレキサンダー・ペレイラ氏が来日し、新しいプログラムを紹介します。ザルツブルグと川崎の姉妹都市関係もまた両国の文化交流を支える一例といえます。2011年の東日本大震災の被害を受けたミューザ川崎ホルルの4月のリニューアルオープンに際しては、ザルツブルグ市からも多額の義援金が寄せられました。

文化分野においては、歴史と芸術を愛する方に好評の展示会「オーストリア皇妃－エリザベト展」が福岡、東京、京都、横浜に続き本年2月から岡山でもご覧いただけます。画家グスタフ・クリムト（1862－1918）の展覧会も昨年に続き本年も名古屋、長崎、宇都宮等の都市で開催予定です。生涯を通じてウィーンで活躍したクリムトはオーストリアの芸術界に大きな影響を与え、ユーゲンドシュティールを世界的に有名にしました。ユーゲンドシュティールもまた大いに日本文化の影響を受けています。

人気の高い旅行先オーストリア

昨年のクリムト・イヤーのみに留まらず、今でもなお人気が高い観光地であるウィーンとザルツブルグの二都市は、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの生涯および活動の中心地としても知られており、多くの日本人旅行者をオーストリアに誘います。2012年5月時点でのオーストリアにおける日本人観光客宿泊数は2万6千泊にも達しました。このように、オーストリアは日本人観光客にとってヨーロッパの中でも変わらず人気の高い旅行先であり、その数は徐々に増え続けています。観光客の多くはウィーンやザルツブルグ

など、クラシック音楽の都としてオーストリアを訪れますが、私としてはそれ以外にもたくさんある魅力的な都市や地域を訪れ、探検することをお勧めしたいと思います。そして同じくオーストリア人には伝統と革新を見事に融合させることに成功した国、日本を訪れて欲しいと思います。

友好協会および姉妹都市

オーストリアには、現在約30の姉妹都市と20弱の友好協会が設置され、密接なネットワークを築き上げ、彼らは大使館のよきパートナーとして重要な役割を担って来ました。これまでも、友好協会の協力により両国が直接的な文化交流を行ってきた機会が多々あり、このような親密なネットワークや交流は、人間関係や相互認識のための有効な手段として両国の関係深化に大いに貢献してきました。そしてそのような活動の結果として、長年継続する共同のプロジェクトや長期にわたる友好関係に数多く恵まれてきました。

定期的に様々なイベントを開催する広島オーストリア協会は、その文化活動を通じて日本・オーストリア間の文化交流の推進に貢献し、オーストリア大使館にとって大変重要なパートナーとなった素晴らしい例であり、このような協力関係を今後も継続できることを心より願っています。

以上のように、2013年も日本にて多数のオーストリア関連イベントの開催が見込まれています。このような環境でオーストリア大使としての新しい一年を迎えられることを、心より嬉しく思います。



ビアホールの会

- 日 時 平成24年8月30日(木) 18:00～20:00
- 場 所 広島アンデルセン4階スカンジナビアホール
- 参加者 100人

演奏は「フルートとオーボエのデュオ」第3回日本木管コンクールで第2位の山本綾香さんのフルートと、元 平成音楽大学准教授 上田愛彦さんのオーボエによるデュオ。華のある両者のテクニックが存在しないと成り立たない「卓越した名人芸」の演奏でモーツァルトやハイドンの名曲を楽しみました。



講演会とクリスマス例会

- 日 時 平成24年12月4日(火) 18:00～20:00
- 場 所 リーガロイヤルホテル広島
- 参加者 120名
- トーマス・ロイドル公使

講演は、9月にオーストリアで行われた ウィーン ジャパンデーに参加した吉中理事に、写真をまじえて、現地の様子を楽しく報告をして頂きました。

また講演の後で、オペラ歌手でバリトンの山岸玲音さんにオーストリア国歌を始め、素敵なクリスマスソングを披露して頂きました。

ゲストのオーストリア大使館トーマス・ロイドル公使に乾杯のご発声をして頂きました。楽しいクリスマスプレゼント抽選会、そして参加者全員で山岸玲音さんとともに「きよしこの夜」を大合唱し、楽しい時を過ごしました。



ケーキと音楽を楽しむ会

- 日 時 平成25年3月16日(土) 14:00～15:30
- 場 所 ホテルチューリッヒ東方2001
- 出席者 50名

昨年に続き2回目となった「ケーキと音楽を楽しむ会」は、エリザベト音楽大学大学院の松浦美音さん（フルート）と鹿取裕美子さん（ピアノ）、お二人によるオーストリアに縁のある演奏でスタートしました。ケーキバイキングでは、バッケンモーツァルトさんのパティシエによるショートケーキとパラチンケン（ウィーン風クレープ）の実演サービスで出席者を楽しませました。演奏の最後は「ふるさと」を始めとする四季の童謡メロディーを皆で合唱して、一体感で包まれる中、会を終りました。



近藤嘉宏 plays Chopin 「別れの曲」シネマ&リサイタル

～ショパンの名曲を映画とピアノで～

「これほど美しい旋律を見つけることは二度とできないでしょう」

ショパン自身がこう言ったと伝えられている名曲、エチュード3番：「別れの曲」。

秋深まる11月、まさに芸術を鑑賞するのにぴったりの季節に、「別れの曲」をテーマに、廿日市市にある素敵なコンサートホール、さくらびあにてイベントを開催しました。映画上映とピアノ演奏を2部構成にして組み合わせた初めての試みです。

映画「別れの曲」は1934年に制作されたドイツ映画。若きショパンが主役で、コンスタンティアとの恋や、ワルシャワを出てパリに移ってからのショパンの華やかな活躍などが描かれています。映像は勿論モノクロで、実に味わい深い雰囲気でした。現在なかなかこの映画を見るチャンスはありませんので、貴重な機会だったのではないのでしょうか。

注目すべきは音楽の使い方。映画の最中ショパンの名曲が各シーンを彩りました。

例えば反乱のシーンに「木枯らし」を上手く合わせていたりして、ただ曲を聴くのととは、イメージがガラッと違った印象を受けることもあったと思います。

ストーリーも、敢えて身を引く、というのが特に我々日本人には好まれるのかもしれません。実際日本では昭和10年に大ヒットしたようです。

この映画を見て、エチュード第3番がなぜ「別れの曲」と呼ばれるようになったかを知ること、この曲がますます美しく、より一層叙情的に聞こえるようになりました。

さあ映画の後はいよいよ近藤嘉宏さんのピアノ演奏です。

近藤さんも、前半の映画の余韻を保ちつつ、それでも自身自身のショパンの世界観を作り上げての演奏。さすがは円熟した演奏家です。

ワルツ第3番から始まり、小犬のワルツや幻想即興曲といった、聞き馴染みのある有名曲で客席をどんどん引き込み、あっという間に1時間が経過しました。

アンコールには何度も応え、近藤さんもかなり気分が高揚してらっしゃったのがよく分かりました。

公演前の舞台準備で、映画のスクリーンの大きさに問題があるなど、ハプニングに見舞われ、冷や汗を流したのですが、この素晴らしい映画を最高の状態で鑑賞して頂けるよう、改

善に改善を重ねました。

また、近藤さんもピアノの調律やりハーサルを開場の直前まで行い、しっかりと準備をされました。この度も本当に心のこもったイベントが開催できたと思っていました。

ご来場頂いた皆さまにおかれましては、90分の映画と60分の演奏、さらにアンコールと、長丁場にお付き合い下さいまして、感謝の気持ちでいっぱいです。

迎えた2013年にも、皆さまの印象に残るようなコンサートを開催すべく、スタッフ一同準備を進めてまいりたいと思っております。その時は、またたくさんの会員の皆さまと楽しい時間を共有できますようにと、この場を借りてお願い申し上げます。



ツィムブルグ大使 初来広

2012年7月、空席となっていた駐日オーストリア大使にベルンハルド・ツィムブルグ氏が着任されました。映画「サウンド・オブ・ミュージック」のロケ地として知られるザルツブルグ州のご出身です。

着任して間もない8月6日、平和記念式典列席のため来広された大使は、在広島オーストリア名誉領事館が置かれている広島ホームテレビを訪れ、大辻茂名誉領事を表敬訪問されました。ご挨拶の後には報道制作局フロアやスタジオ、昼ニュースの生放送など、局内も視察され、深く関心を示されていました。

視察後、大辻名誉領事と昼食を共にした大使は、談話の中で、オーストリアは自動車産業にも力を入れており、自動車部品やディーゼルエンジン開発も盛んである事など、日本

ではあまり知られていないオーストリアの側面についてお話され、今後の経済・文化交流について幅広く意見を交換し、両国の友好を深めました。



会員寄稿

ベルリン・ウィーン平和親善訪問

「平和モニュメント」は厳かに

2012年9月7日、私達「ベルリン・ウィーン平和親善訪問団」のメンバー17人はウィーン市16区役所（オッククリング区）前広場に設置されている「平和モニュメント」の前に立った。4年前に広島の被爆石を使って建立された「平和モニュメント」は静かにそして厳かに私達を迎えてくれた。そこにフランツ・プロコップ区長（選挙で選出）が巨体を揺らしながら区役所から駆け付け、満面の笑顔で私達を迎えて下さった。4年ぶりの再会。今回の訪問団17人の内13人はプロコップ区長とは初めての出会いであったが一人ずつ握手を交わしながら温かく迎えて頂いた。



9月9日は「ジャパンデー」

ウィーン市では「平和モニュメント」の除幕式の式典が

ベルリン・ウィーン平和親善訪問団 団長 吉中 康磨

開催された2009年9月9日を記念して、9月9日（直近の土曜日）を「ジャパンデー」と名付け、毎年、地下鉄広場前にステージを設置して日本文化を紹介する催しを開催している。出演者は我々のように日本から参加した者が中心であるが、ウィーンに滞在している音楽家や空手・書道家など芸術・文化を学んでいる人達が（外国人も含め）自慢の腕前を披露して日本文化を広く紹介するプログラムが組まれている。広島のフラワーフェスティバルと同じようなステージが設置され13時から18時頃まで延々と続く。

今回2009年に続いて2度目となる「広島・ウィーン平和プロジェクト」の参加者は、前回も参加した雅楽ボーカルの木本いず美さん、そして初参加の心身統一合気道会広島支



部長引地聖壮さん（副団長）とその門下生6名、広島邦楽舞踊協会副会長花柳雅豊さん（副団長）一門の5名それに私と田中勝邦氏に第1回から毎年参加している世話役の大坂孝子さん等5人の計17名の構成で参加した。

雅楽ボーカルの優雅な歌と舞、毅然とした中にも迫力満点の心身統一合気道の演武、雅やかな日本舞踊は、観客を心酔させ大きな拍手と歓声を頂いた。無事日本文化紹介の役割を果たしステージから降りると、観客が出演者の周りに集まってきていろいろ質問を投げかけてくるなど、親善交流の役割も十分に果たすことができたと思う。

プロコップ区長の熱い配慮に感激

我々のプログラムが全て終わり荷物の整理をしていると、プロコップ区長の秘書が訪ねてきた。「区長は次の会合があるのでご挨拶に伺えませんが、これを渡して下さいと預かって来ました」と分厚い封筒を差し出す。受取って中を見るとしわくちゃんのお札が入っている。それも10€、50€、100€札などバラバラで6万€（約6万円）。「実は、区長や元日本大使モーザさんなどが皆さんのステージを観て感激され、何か感謝の気持ちを表したいと急遽、持ち合わせていたお金をみんなから集めたものです。急なことで多くのお金が集まらなかったし、区役所も銀行も日曜でお休みなので、新札を揃えることができなくて申し訳ないのですが、今夜のお食事の時ワインでもお飲み下さい。」との言付けがあったという。

このサプライズに私達は驚き、プロコップ区長の温かい配慮に胸に熱いものが込み上がる。「広島とウィーンとの本当のお付き合い、強い絆が出来たなあ」と感じた出来事であった。公演の打ち上げは、ウィーンでは絶対外すことのできない和風レストラン「天満屋」。お陰で少し贅沢な夕食会を楽しむことができた。

「区長さんに感謝。有難う！ウィーン万歳！！」の乾杯。

ベルリン・テルトー市でも大歓迎

今回は、ウィーンの公演に先立って、ベルリン在住の寺崎さん（元テレビ朝日特派員）の支援を得てドイツ・ベルリン市とテルトー市で公演をすることができた。テルトー市では、市役所のホールは満席で、公演後にトーマス・シュミット市長のご配慮で市民との交流の場ワインパーティを開いて頂く。広島から持参した日本酒やもみじ饅頭があっという間に無くなる。予定時間を遥かに上回ったが、市長は最後までお付き合い下さり、その上夕食をご馳走して下さいとおもてなしに我々一同大感激。

ベルリン市では、「ボツダム宣言」の首脳会談開催地や、永久の平和を願って建立されたモニュメント（広島と

長崎の被爆石を使用）のある「広島、長崎広場」も視察する。世界各地に「ヒロシマ広場」「ヒロシマ通り」「ヒロシマ橋」があると聞いているが、ここベルリンで「HIROSIMA—NAGASAKI PLATZ」の街路標識を見た時「ヒロシマ」の世界での位置づけの重要さを感じた。

イップ常子さん今回も大活躍

第2回目の「ウィーン・ベルリン平和モニュメント親善訪問団」は、天候にも恵まれ、各地で期待以上の親善交流が出来、思い出深い有意義な旅となった。この成功は、ウィーン市役所との折衝を始めホテルやバスなど全てを完璧に手配をすると共に、表敬訪問やステージでの通訳、観光の案内など、親身になってお世話頂いたイップ常子さん（広島市出身）の存在なくては考えられない。準備のため何度も何度も田中氏と電話やメールでやり取りを繰り返し、われわれの任務が無事全うできるようお手伝い頂いたイップ常子さんに、大いなる感謝の意を捧げたい。また、今回初めてドイツを訪問することになり、大変お世話になった寺崎さんにも感謝したい。

そして何よりも、初めてのヨーロッパの旅で観光も楽しみにされていたのに、殆ど観光が出来なかったにも拘わらず、苦情一つ言うことも無く親善交流に務めて下さった団員の皆様の広い心に感謝を申し上げたいと思う。

今後の親善交流の在り方

これ程熱く迎えて戴き、強い絆が出来ているウィーン市との交流に、今後どう対応して行くか抜本的に考える必要があると思われる。今回は何処からも補助がなく、ステージ関係の費用や必要な事務費など全て参加者の負担で賄ったが、今後も交流を続けていくにはボランティアだけでの対応では長続き出来ないのではないかと憂える。

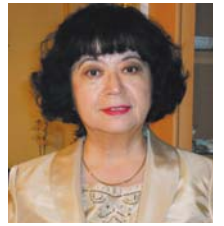
今年も既にイップ常子さんを通じて「モニュメント建立5周年になるので、今まで以上に、充実した訪問団を派遣して欲しい。」とウィーン市からオファーが届いている。





ウィーン便り

ハプスブルグ帝国の栄光



オーストリア国家公認ガイド イップ 常子

（財）ロングステイ財団では年一度東京ビッグサイトにてロングステイフェアが開催され、ウィーンサロンからも毎年出展しております。例年のように2012年も日本滞在中、東京を始め名古屋、京都、大阪、倉敷、松江、広島など各地で講演を催しました。広島では2012年11月27日夕方から広島まちづくり市民交流プラザで「ハプスブルグ帝国の栄光」という演題で講演。その時の内容をご紹介させていただきます。

現在のオーストリアの地には、すでに2000年以上も前にケルト人やローマ人が居住していましたが、996年、神聖ローマ皇帝に選ばれたドイツ王オットー三世による古文書に初めてオスアリッチ（OSTARRICHI）という国名が記されています。当時オーストリアを約270年間統治したのはバーベンベルグ家でしたが、最後のフリードリッヒ二世（闘争公）によってバーベンベルグ家は跡絶え、しばらくの間空白時代が続きます。1273年、ハプスブルグ家のルドルフはドイツ国王に選ばれ、ここからハプスブルグ家の登場です。その後ハプスブルグ家は1273年から1918年まで約645年間支配。それではなぜこのハプスブルグ帝国は600年以上も続いたのでしょうか。



▲ Eleonore

ガル王女エレオノーレと結婚します。

この婚姻によってハプスブルグ家繁栄の基礎を築くことに成功。それは戦わずして王家を発展させる独特の術を心得ていたのです。つまり結婚政策です。

息子マキシミリアンはブルグンドのマリアと結婚、マリア

ルドルフ一世の死後、神聖ローマ帝国の支配者は、ハプスブルグ家から他家に移ります。しかし150年後、再びハプスブルグ家に家運が巡ってきます。アルブレヒト二世後、フリードリッヒ三世が皇帝に即位。彼はこの戴冠式のため、ローマまで出かけますが、その旅の途中シナイで、ポルト

の父親が戦死すると、当時ヨーロッパで最も繁栄していたブルグンド公国がハプスブルグ家の領土となってゆくのです。そしてマキシミリアンは父フリードリッヒ三世の後を継いで皇帝に即位。



▲ Kaiser Maximilian

世の孫 カール五世はイザベラとの結婚でスペイン王国、ブルゴーニュ公爵をも兼ねてヨーロッパの強国支配者となり、ハプスブルグ家スペイン系を支配してゆきます。

一方カール五世の弟フェルディナンド一世はウィーンでハンガリー・ボヘミアのヤゲロー王女アンナと結婚。彼の妹マリアはハンガリー王ルードヴィックと結婚。しかしルードヴィックは1526年のモハチの戦いで戦死したため、義理兄であるフェルディナンド一世がボヘミア・ハンガリー国王に即位。またまた思いがけない幸運が廻ってくるのです。フェルディナンド一世はハプスブルグ家オーストリア・ハンガリー・ボヘミアを支配してゆきます。当時ボヘミアとハンガリーの王位は、ヤギウォ家・ポーランド王家が兼ね、ここでもオスマン・トルコに脅迫されていたポーランドはハプスブルグ家との絆を必要としたのです。

このように息子マキシミリアン一世から結婚政策によって、また偶然の家運に恵まれ、ハプスブルグ家が益々繁栄と領土拡張へと発展してゆくのです。

これは有名なオーストリアの格言です。（日本語訳）

「戦いは他のものにさせるがよい。

汝幸あるオーストリアよ、結婚せよ」

“Bella gerant alii, tu felix Austria nube

Nam quae Mars aliis, dat tibi regna Venus.”

（ラテン語訳）



▲ マキシミアン一世とその家族

オーストリアの格言通り、何世紀にもおよびハプスブルグ家の皇帝たちは家運にも恵まれましたが、多技に富んだ皇帝や大公たちによって文化・芸術面でも開花したのです。

実は美術史美術館内の美術工芸品コレクションが約10年間修復中で閉鎖されていましたが、2013年3月1日より再オープンいたしました。

ここにはハプスブルグ家代々の皇帝や大公たちによって蒐集された中世末期以来、ルネッサンス、バロックなどの金細工、象牙細工、石彫、ブロンズ像、タペストリーなどの膨大な数々の美術工芸品などが展示されています。

ここで最高傑作と言われるベンヴェニート・チェルリーニの塩入れ「サリエラ」をご紹介します。この作品は彼が1540年～1543年ごろパリ滞在中に制作したのですが、紆余曲折の末、1570年フランス王シャルル九世と皇女エリザベート（ハプスブルグ家フェルディナンド一世の息子マキシミアン二世皇帝の皇女）の婚礼の際、結婚の代理を務めたチロル大公フェルディナンド二世（マキシミアン二世皇帝の弟）に感謝を込めて贈られました。

この塩入れ「サリエラ」は上部は金と一部は七宝焼きで、台座は象牙や黒檀で制作され、高さ26.3センチメートル、幅21.5センチメートル、長さ28.5センチメートルの大きさです。全体は地球をシンボルとし、海と大地の関連として、女性と男性が向き合って足を組んで座っています。男性は海をシンボルとするギリシャ神話の海の主神ポセイドンで、手に三叉のほこを持っています。そしてその横には豪華な船を模った塩入れとポセイドンの周辺には4頭の子牛がいます。一方美しい女性はギリシャ神話の大地の女神テルス（テレス）をシンボルとして豊穡の角を手に、そばには大地の動物と神殿を模った胡椒入れです。

台座の周囲の装飾は東西南北の方向、また日の出から日没などの一日の人間の営みなどがシンボルとして装飾されています。

王侯貴族の美術工芸コレクションは世界的にも希少価値ある蒐集品で、人工の作品ばかりでなく、自然の産物やエキゾチックな珍品などもまた多く展示されています。

例えば、「ベゾアール」ですが、これは反芻動物の胃や腸に発生する結石ですが、それは金やエメラルド、ルビーなど

で装飾されています。特にルドルフ二世皇帝（マキシミアン二世の息子）はプラハ城に閉じこもり、錬金術や神秘的な宇宙に関心を寄せ、また悪魔などの冥界の世界に没頭し、自分も毒殺されるのではないかと不安にかられ、そばにこのすばらしく装飾された「ベゾアール」を置いていたそうです。実はこのベゾアールが神秘的な力をもつものと信じられていました。

またある特定の病気などの特効薬としても大変珍重されていたそうです。これは装飾の効果のみでなく皇帝たちの重要品でもあったのです。コレクションの数々、何世紀にも渡って蒐集された美術工芸コレクションは一見の価値があります。



▲ サリエラ



▲ ベゾアール

広島オーストリア協会後援コンサート開催のお知らせ

当協会では、2013 年度開催の 2 つのクラシックコンサートを後援し、ウィーンの素晴らしい音楽公演を応援します。今後もウィーンの音楽を会員の皆さまに楽しんで頂ける機会を作っていききたいと思います。

ウィーン・オルフェウス室内合奏団 日本公演 三原公演 (※終了しております)

日 時：平成25年4月6日(土)17:00開演
場 所：三原市芸術文化センター ポポロ

指 揮：ジョエル・マティアス・ジェニー
ヴァイオリン：マリオ・ホッセン
テノール：ボイコ・ツヴェーターノフ



▲ Mario Hossen

鬼才パガニーニの再来と言われるマリオ・ホッセンとともに、実力派ソリストされたウィーン・オルフェウス合奏団、記念すべき初来日。

ウィーン・オルフェウス室内合奏団は、ウィーンとチューリッヒを拠点にした国際的なオーケストラ。メンバーは国内外のコンクール優勝者などで構成されています。

演奏曲目は、モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、パガニーニ「ラ・カンパネラ」、プッチーニ「誰も寝てはならぬ～オペラ：トゥーランドットより」、サラサーテ「ツイゴインエルワイゼン」他。

素晴らしい演奏で会場はウィーンの風に包まれ、大盛況のうちに終了しました。



▲ ウィーンオルフェウス楽団

Canon Presents ウィーン少年合唱団 呉公演

日 時：平成25年5月22日(水)18:30開演
場 所：呉市文化ホール

〈チケット発売中〉

S席：5,000円 A席：4,000円
B席：2,000円 他

問い合わせ：

HOMEイベントセンター TEL(082)221-7116

プログラム

J. シュトラウスⅡ

「美しく青きドナウ」「トリッチ・トラッチ・ポルカ」

M. ハイドン「アニマ・ノストラ」

ジーツインスキー「ウィーンわが夢の町」

ヨーゼフ・シュトラウス「鍛冶屋のポルカ」

岡野貞一「ふるさと」

NHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」

(作曲：管野よう子 作詞：岩井俊二) 他

ウィーンの象徴、音楽大使として世界中の人々の心を癒す天使たち、「ウィーン少年合唱団」創立は 1498 年。巨匠・トスカニーニが彼らのコーラスを評して《天使の歌声》と命名したことで有名。世界の数ある少年（少女）合唱団の中でも抜群の人気と実力を誇ります。2013 年はモーツァルト組が来日します。



▲ ウィーン少年合唱団

2013 年度も、オーストリア協会主催のコンサートを検討中です。どうぞお楽しみに！

編集後記

8月に実施した「ピアパーティー」から当協会の事務局を担当しています。11月の「シネマ&ピアノリサイタル」12月に実施した「講演とクリスマス例会」そして3月の「ケーキと音楽を楽しむ会」と、あっという間に一年が過ぎようとしています。会員の皆様には、不慣れな部分もありご迷惑をおかけしているかも知れませんが、今年度は中身をさらに充実させて、会員の皆様にとって、ためになるまた楽しい会になるよう努力してまいりますので、今後ともご協力よろしく願いいたします。ご意見やご希望などがありましたらご遠慮なく事務局までご連絡ください。(事務局 野崎賢治 記)